

## 令和元年度 鳥取大学第2回経営協議会 議事要旨

日時 令和元年10月1日(火) 15:30 ~ 17:20  
場所 鳥取大学事務局棟 第一会議室  
出席者 (学外) 江崎, 熊埜御堂, 林田, 平井, 松本, 宮崎, 吉岡,  
渡辺の各委員  
(学内) 中島, 田村, 河田, 細井, 松田, 藪田, の各委員  
陪席者 田中監事, 安延副学長, 山口副学長, 山根地域学部長,  
黒沢医学部長, 霜村農学部長

### 議事要旨の承認

前回(令和元年6月17日開催, 令和元年度第1回)の議事要旨を承認した。

### 前回質問事項への回答

前回の経営協議会にて学外委員より質問のあった以下の事項について, 資料1および資料2に基づいて回答があった。

- ・「医学教育分野別評価」において高い評価を受けた手話教育の具体的内容
- ・国際ネットワーク強化の具体的な進め方

## 報 告

### 1. 令和2年度国立大学法人運営費交付金概算要求

資料3に基づき, 令和2年度概算要求について説明があり, 前回の経営協議会で方向性を承認後, 正式に概算要求を行ったこと, 及び文部科学省から財務省に提出された概算要求事項及び要求額について報告があった。

### 2. 2018(平成30)事業年度財務諸表の承認

資料4に基づき, 2018(平成30)事業年度財務諸表について, 文部科学大臣の承認を受けた旨の報告があった。

### 3. 令和元年人事院勧告

資料5に基づき, 令和元年人事院勧告について, 民間給与との較差を埋めるため俸給表の水準を引き上げること, ボーナスを引き上げ(0.05月分)民間の支給状況等を踏まえ勤勉手当に配分すること, 住居手当の支給対象となる家賃額の下限を引き上げ, その原資を用いて手当額の上限を引き上げること, 及び本学に適用した場合の人件費への影響額について説明があった。

## 意見交換

資料6に基づき、中島学長より『鳥取大学の今とこれから』と題して、本学は、「学生が成長を実感し、達成感と満足感を持って卒業、修了し、鳥取大学で学んで良かったと思うような大学」「学生と教職員を大事にする大学」「社会や地域から必要とされる大学」の3つの大きな方針を目指していく旨の説明があり、説明後、各委員との意見交換が行われた。

### — 委員からの主な発言 —

- ◇ 学長の方針に対しては自治体や地域を挙げて協力していきたいので、今後はより具体的な内容を方針へ組み込んでいくこと、また手話教育のような先端的な内容も必要であり、手話を扱える専門家といった人材が地域にできることは本学の特色にもなるので、こうした社会貢献の姿を具体的に作っていくことを希望する旨の発言があった。

また、地域にとって大学の学生や教員との交流は喜びでもあるので、両者の接点を作ること、学生にも大学の外に出て地域と交流してもらうことを期待するとともに、鳥取県は地域と交わるコミュニケーション環境が都会より揃っていることを活かせば、学生のメンタル問題の解消や地域のコアという本学の新たなプロジェクトへの寄与が期待できる旨の発言があった。

加えて、作物開発・ベンチャービジネス育成といった様々な接点を具体的に作っていくことが実践的な教育の場になるので、構築に向けた話し合いを進めていきたい旨、発言があった。

国際交流については、留学生の数だけでなく、留学生が鳥取を世界中に発信する等大学内にいる人々を国際化の資源として活用すること、また外国人労働者の増加に対しては、大学にいる当事者に当たる人達とつながることが社会の国際化にも役立つので、そのような観点でも国際交流の拡充を希望する旨の発言があった。

併せて、専門用語を含んだ手話教育・手話通訳者の設置については、学んだ学生をコアとしつつ、他の病院への波及も希望する旨の発言があった。

- ◇ 18歳人口の減少・入試改革が迫る中、大学側も選ばれる必要性があり、本学が選ばれていくためにも、社会に対して示す「わかりやすいここにしかないもの」ができれば、より魅力的な大学となる旨の発言があった。

また、本学への地元入学者数の低さに対しては、まだまだ伸び代があるため、合格者率を上げる働きかけを希望すること、女性活躍の推進については、教授職に占める女性教員の割合が全国に先駆けた数値になることを期待したい旨の発言があった。

- ◇ 高等教育の修学支援新制度が導入されると、在學生で従来の制度による授業料免除措置が受けられなくなる者が生じる場合の方策について質問があり、文部科学省としては学部學生については、在学中は引き続き支援できるように現在財務省と予算の交渉をしていること、また仮に免除措置が受けられない學生が生じたとしても本學としては何らかの支援を行いたい旨説明があった。
  
- ◇ 地方創生の話が始まって5年が経過し、来年度からは県・市町村が予算・計画等を見直し改めて動き出す第二段階の時期に来ており、このような時期に地域連携のコアとして各機関と連携できれば鳥取大學としてもチャンスであるため、積極的な地域連携の実践を希望する旨の発言があった。  
また、學生に地元企業の魅力があまり知られていないこと、現在のインターンシップが企業の雰囲気を感じる程度の形だけのものとなっていることが懸念されるため、海外のような長期間のインターンシップの実施および産業界への働きかけを鳥取大學から始めていくことを希望したい旨の発言があった。

#### その他

- ◇ 資料7に基づき、最近の地域貢献の取組みについて説明があった。
- ◇ 資料8に基づき、次回の経営協議会を11月18日(月)に開催予定である旨説明があった。